

## 平成 29 年第 18 回美唄市教育委員会会議録

1 と き 平成 29 年 12 月 22 日（金）  
午後 4 時 00 分～午後 4 時 40 分

2 ところ 教育委員会室

3 出席委員  
星野教育長 高橋委員 森田委員 齋藤委員

4 説明員  
森川教育部長 阿部学務課長 日下学校給食センター所長  
松井指導室長 谷村生涯学習課長 谷川生涯学習課長補佐  
川西スポーツ振興課長 高田図書館長 高橋総務係長

5 開会  
高橋委員を署名委員に指名  
会期を 1 日と決定

6 議件名

その他 1 平成 29 年第 4 回市議会定例会一般質問について
----------------------------------

## 概要記録

16:00

●星野教育長 ただいまから、平成 29 年第 18 回美唄市教育委員会議を開会いたします。順序第 1 会議録署名委員につきましては、高橋委員を指名いたします。次に順序第 2 会期の決定につきましては、本日 1 日といたします。次に順序第 3 教育長報告、行事報告並びに行事予定について、事務局から説明をお願いいたします。

●森川教育部長 教育長報告の前に説明員の欠席についてご報告いたします。学務課の西田課長補佐については、本日都合により欠席となりますことをご報告申し上げます。

それでは、資料に基づきまして、教育長報告、行事報告・行事予定につきまして、ご説明いたします。

※教育長報告（添付資料 別紙 1）

※行事報告、行事予定説明（添付資料 別紙 2）

●星野教育長 ただいま、教育長報告、行事報告並びに行事予定について、事務局から説明がありましたが、何かご質問等ございませんか。

●各委員 ありません。

●星野教育長 なければ、次に移ります。

順序第 4 その他 1 平成 29 年第 4 回市議会定例会一般質問について議題とします。事務局から説明お願いいたします。

●森川教育部長 それでは資料に基づきまして、概要についてご説明いたします。平成 29 年第 4 回市議会定例会の日程についてですが、12 月 5 日本会議。12 月 6、7、9、10 日が休会・議案審査、12 月 8、11 日が一般質問、12 日が常任委員会、13 日が予算審査特別委員会、14 日が地域医療体制等調査特別委員会、15 日本会議で終了ということになっています。提出議案ということで教育委員会関係分ですが、平成 29 年度美唄市教育委員会の活動状況に関する評価・点検（平成 28 年度事業対象）を議会に提出し報告いたしました。総務・文教委員会では美唄市立学校設置条例の一部改正の件（継続審査）、美唄市立栄幼稚園の存続を求める陳情（継続審査）、指定管理者の指定の件、安田侃彫刻美術館アルテピアッツァ美唄、同じく、美唄市営温水プール、同じく美唄市立図書館についての指定管理者の指定の件を審議いただきました。また、予算審査特別委員会では平成 29 年度美唄市一般会計補

正予算、私立幼稚園施設型給付費負担金給付事業と体育センター整備事業についてのご審議をいただきまして、全案件とも可決をいただきました。次に、人事案件についての審議がありまして、議案第 90 号 美唄市教育委員会委員の任命の件ということで、現在の森田委員の任期が今年 12 月 26 日までで、その期限に伴う新任の任命の件ということで、中村町北 今野暁子さんの任命について議会の同意を求める議案が提出され、提案とおり議会の同意を得られました。次に一般質問ですが、全部で 9 人の議員の方が一般質問を行いまして、そのうち 7 人の議員の方が教育関係の一般質問をされました。以下、教育関係の一般質問の質疑の対応についての説明をいたします。

※一般質問答弁内容説明（添付資料 別紙 3）

●星野教育長 その他 1 平成 29 年第 4 回市議会定例会一般質問について、何かご質問等はございませんか。よろしいですか。

●各委員 はい。

●星野教育長 なければ、その他 1 平成 29 年第 4 回市議会定例会一般質問については終わります。

本日の議事については終了しましたが、他、何かございませんか。

●各委員 ありません。

●星野教育長 ないようですので、議事については終了いたします。

議事は終了しましたが、本会議をもちまして、退任される森田委員に一言ご挨拶をお願いしたいと思います。

（森田委員 挨拶）

●星野教育長 それでは、これをもちまして、平成 29 年第 18 回美唄市教育委員会会議を閉会いたします。ご苦労様でした。

16:40 終了

以上会議の顛末を記載し、その相違無いことを証するためここに署名する。

署名委員 高橋 泰浄

【別紙 1】

教 育 長 報 告

自 平成 29 年 11 月 17 日

至 平成 29 年 12 月 21 日

区 分	会 議 等	
11月17日	第 16 回教育委員会議	教育委員室
17日	絵本の寄贈（国際ソロプチミスト美唄）	教育長室
18日	峰延獅子舞実演交流会懇親会	ゆ〜りん館
19日	峰延獅子舞実演交流会	峰延小学校
20日	第 9 回指定管理者選定委員会	市長会議室
21日	美唄市道立林業大学校誘致期成会林業試験場視察	林業試験場
22日	美唄市職員勤続表彰式	大会議室
22日	第 2 回美唄市総合教育会議	市長会議室
22日	第 17 回教育委員会議	市長会議室
26日	ナマール北海道びばいキャンプ	体育センター
27日	感謝状贈呈式（カラオケ選手権大会実行委員会）	市長応接室
27日	キッズ・アスリートスクール閉校式	総合体育館
28日	学校給食お米の寄贈（JA びばい）	教育長室
12月 1日	教育長等教育行政幹部職員セミナー	ホテルライフオー（札幌市）
2日	中央小学校スクールバンド演奏会	中央小学校
4日	感謝状贈呈式（日本理化学工業株式会社）	ピパの子保育園
5日	第 4 回市議会定例会（～15 日）	議場ほか
5日	「栄誉を讃えて」表彰式	市長会議室
9日	2017 グリーン・ルネサンス推進事業シンポジウム	市民会館
13日	教育講演会	総合福祉センター
20日	第 3 回管内教育長会議	空知合同庁舎（岩見沢市）
20日	市内高等学校ワーキンググループ会議	教育委員室
21日	チャレンジデー2017 第 4 回実行委員会	大会議室
21日	感謝状贈呈式（北有建設株式会社）	市長応接室

上記のとおり報告する。

平成 29 年 12 月 22 日

美唄市教育委員会

教育長 星 野 恒 徳

【別紙2】

## 11 月 行 事 報 告

教 育 委 員 会

日	曜	行 事	時間	場 所	対 象
17	金	読み聞かせ	11:30	子育て支援センター	市民
18	土	第63回発表会		栄幼稚園	
		リサイクル・ブックフェア	10:00	市民会館	市民
		おはなしの会ブックスタート（3歳児）	10:30	図書館児童室	市民
19	日	峰延獅子舞実演交流会	11:00	峰延小学校	関係者
20	月				
21	火				
22	水	第8回定例教頭・主幹教諭会議	9:30	第4会議室	関係者
23	木				
24	金				
25	土				
26	日				
27	月	キッズ・アスリートスクール <sup>⑭</sup> （最終回）	16:30	総合体育館	市民
28	火				
29	水				
30	木	ブックスタート（7か月児）	13:00	保健センター	市民

## 12 月 行 事 報 告

教 育 委 員 会

日	曜	行 事	時間	場 所	対 象
1	金	読み聞かせ	11:30	子育て支援センター	市民
2	土				
3	日	びばいクライミングフェスタ2017（キッズボルダリングチャレンジ）	9:30	体育センター	市民
			11:00		
4	月				
5	火				
6	水				
7	木	ブックスタート（3歳児）	13:00	保健センター	市民
8	金				
9	土	おはなしの会ブックスタート（3歳児）	10:30	図書館児童室	市民
10	日				
11	月				
12	火				
13	水	第9回定例校長・園長会議	9:30	第4会議室	関係者
		教育講演会	18:30	総合福祉センター	関係者
14	木	第9回定例教頭・主幹教諭会議	9:30	第4会議室	関係者
15	金	読み聞かせ	11:30	子育て支援センター	市民
16	土	第2回美唄キッズ漢字検定	10:00	市民会館大会議室	市民
		おはなしの会ブックスタート（3歳児）	10:30	図書館児童室	市民
17	日				
18	月				
19	火				
20	水				
21	木	ブックスタート（7か月児）	13:00	保健センター	市民

# 1 月 行 事 予 定

教 育 委 員 会

日	曜	行 事	時間	場 所	所 管
1	月				
2	火				
3	水				
4	木				
5	金				
6	土				
7	日	美唄市成人式	13:00	市民会館	生涯学習課
8	月				
9	火	仕事始めの式			
10	水	キッズ・アートスクール	13:00	ピパオイの里プラザ	生涯学習課
11	木	ブックスタート(3歳児)	13:00	保健センター	図書館
12	金				
13	土	おはなしの会ブックスタート(3歳児)	10:30	図書館児童室	図書館
14	日				
15	月				
16	火				
17	水	第10回定例校長・園長会議	9:30	第4会議室	指導室
18	木	ブックスタート(7か月児)	13:00	保健センター	図書館
19	金	読み聞かせ	11:30	子育て支援センター	図書館
20	土	おはなしの会ブックスタート(3歳児)	10:30	図書館児童室	図書館
21	日	美唄サテライト・キャンパス成果発表会	13:30	市民会館	サテライト・キャンパス推進室
22	月				
23	火	第3回青少年指導員専任指導員会議	15:30	市長会議室	生涯学習課
24	水	第10回定例教頭・主幹教諭会議	9:30	第4会議室	指導室
25	木	ブックスタート(3歳児)	13:00	保健センター	図書館
26	金	おはなしの会ブックスタート(3歳児)	10:30	図書館児童室	図書館
27	土				
28	日				
29	月				
30	火				
31	水				

平成 29 年 第 4 回 定例会 一般質問

松山 教宗 議員  
教育委員会学務課

件 名            5     教育行政について

中項目          (1)    小中学校適正配置について

質問内容

- ①小中学校適正配置に関する保護者説明会の協議経過について
  - ・保護者会での意見・要望について伺う。
- ②茶志内小学校、峰延小中学校の統合について
  - ・統合時期及び統合校について伺う。
  - ・保護者会での協議内容について伺う。
- ③統合を実施する上での課題について伺う。

答弁内容

（小中学校の適正配置計画について）であります、

①本市では少子化の進行に対応し適正な学校規模とするため、これまで学校の統廃合を進めてきたところであります。

本年 8 月から 11 月にかけて、茶志内小学校については、地域説明会と保護者説明会を 2 回実施し、峰延小学校及び峰延中学校については、地域説明会と保護者説明会を 3 回実施し、南美唄小学校と南美唄中学校については、PTA の役員に対して、今後の少子化の傾向を踏まえ、今後における小中学校の適正配置計画の基本的な考え方を説明してまいりました。また、茶志内小学校、峰延小学校の統合先として計画している中央小学校と南美唄小学校の統合先として計

画している東小学校については、PTAの役員等に対し、本市の少子化の現状や複式校3校区での説明会でのご質問やご意見などをお伝えしたところであります。

次に、統廃合の時期についてであります。1回目の説明会において、茶志内、峰延の保護者及び地域の方からは、教育委員会が統廃合の時期を示さない中で、保護者と地域の中で統合について話し合いをするのは難しいので、教育委員会として統合時期やスケジュールのたたき台を示してほしいなどの意見が出されたところであります。

教育委員会としましては、小学校では平成32年度に、中学校では平成33年度に全面改訂される学習指導要領の柱となる主体的・かつ対話的で深い学びを実践するアクティブ・ラーニング・いわゆる能動的な学習の視点に立ち、集団の中で児童・生徒の教育環境の整備を行わなければならない観点から、小・中学校ともに、学習指導要領の移行期間中に統合を実施すべきものと判断し、2回目の説明会において、茶志内小学校及び峰延小学校につきましては、平成32年4月1日、中央小学校との統合を、峰延中学校につきましては、平成31年4月1日、美唄中学校との統合について、保護者説明会に具体的な案としてお示したところであります。

この2回目の説明会において保護者の方からのご意見では、小規模校をなくさないでほしい、小規模特認校として残してほしいといったご意見が出されたところであります。また、質問の中では、スクールバスの運行に関すること、新しい学校で人間関係を上手に築けるか、大きな集団に適合していけるかという不安に関すること、交流授業の実施に関すること、部活動に関すること、クラス分けに関すること、制服・ジャージの公費負担に関することなど、様々な意見や要望が寄せられたところです。

なお、茶志内小学校と峰延中学校につきましては、現在、教育委員会が示した統合スケジュールをもとに、保護者会の中で統合について協議をしていただいているところです。



また、峰延小学校については、保護者会から教育委員会で統合に関するアンケート調査を実施してほしいとの要望を受けて、現在、12月11日までに集約するアンケート調査を実施しており、教育委員会といたしましては、このアンケート結果を十分踏まえ、保護者の皆様と協議をしてまいりたいと考えております。

平成 29 年 第 4 回 定例会 一般質問

再質問

松山 教宗 議員  
教育委員会学務課

件 名            5     教育行政について

中項目          (1)    小中学校適正配置について

質問内容

1 小中学校適正配置計画について

- ①統合時期の前倒しについて、教育委員会の考え方を伺う。
- ②南美唄小中学校の統廃合について
  - ・統合に向けた考え方について
- ③受け入れ校側の課題について

答弁内容

（茶志内小学校の統合時期及び統合校について ）であります。  
①教育委員会では、平成 32 年 4 月 1 日、中央小学校との統合をお示したところでありますが、保護者説明会でのご意見では、平成 30 年 4 月 1 日、平成 31 年 4 月 1 日の統合時時期の前倒しも検討してほしいとのご意見もありました。

教育委員会といたしましては、平成 30 年 4 月 1 日の統合については、条例改正の諸手続き、予算措置や、教員の人事異動、統合先の受け入れ体制、そして何よりも茶志内小学校児童の心の準備などの課題を総合的に考えますと、物理的に難しいものと回答したところであります。

なお、平成 31 年度の統合前倒しにつきましては、茶志内小学校

保護者の意見ということでまとまった場合には、教育委員会いたしましたも、この意見を十分踏まえ、合意形成に向けた協議を進めてまいりたいと考えております。

②次に、南美唄小中学校の統廃合についてであります。11月16日に、南美唄小中学校 PTA 役員の方々に、南美唄小中学校の児童生徒・普通学級の推移の見込み、想定される統合校、茶志内小学校及び峰延小学校での保護者説明会での協議経過などについて、ご説明してきたところです。

南美唄小学校については、今後の児童数の推移をみると、平成 33 年度に欠学年が生じる可能性があること、中学校については、平成 36 年度に普通学級が 2 クラス、特別支援学級 1 クラスの 3 クラス編成になることが想定されるなど、小学校、中学校とも新学習指導要領の柱となるアクティブラーニング・集団の中での能動的な学習を行う上で、厳しい教育環境になることが見込まれるところです。このことから、教育委員会といたしましては、両校の統合時期・統合校などにつきましては、来年度に入ってから、具体的なスケジュール案、統廃合の課題や課題の解決策を示した中で保護者の皆様と協議をさせていただきたいと考えております。

③次に、受け入れ校側の課題についてであります。新しい学校で、人間関係を上手に築けるか、大きな集団に適合していけるかという不安がありますので、こうした統合時の不安解消を図るため、授業、児童会・生徒会活動、部活動、各種行事での交流やクラス分けについて、十分配慮するとともに、統廃合両校の保護者につきましても、PTA 活動での交流が必要であると考えております。

平成 29 年 第 4 回 定例会 一般質問

松山 教宗 議員  
教育委員会スポーツ振興課

- |     |     |                        |
|-----|-----|------------------------|
| 件 名 | 5   | 教育行政について               |
| 中項目 | (2) | 総合体育館のトイレ、シャワー室の整備について |

質問内容

総合体育館の和式トイレの洋式化並びに多目的トイレの設置とシャワー室入口の狭小と段差の解消についての検討内容について伺います。

答弁内容

（総合体育館のトイレ洋式化並びにシャワー室の整備等について）であります、

本年度、オリパラ合宿誘致に向け、トイレやシャワー室の改修整備を検討したところでございますが、調査の結果、トイレ及びシャワー室の床下には、床暖房用の配管など、複数の配管があり、これら改修・接続工事には、相当額の経費が掛かることが判明したことに加え、オリパラ合宿誘致には、誘致するスポーツの種類にもよりますが、500 万円から 600 万円の地元負担が生じ、費用対効果の観点からオリパラ誘致に関連しトイレやシャワー室等の整備を見送ったところであります。

しかしながら、様式トイレの個数が少ないことや、シャワー室の快適な環境づくりのための改修については、スポーツ振興の観点から必要と考えておりますことから、教育委員会といたしましては、

今後、工事担当課と工法について研究・協議し、必要な整備についての予算確保に努めてまいります。

## 平成 29 年 第 4 回 定例会 一般質問

松山 教宗 議員

教育委員会スポーツ振興課

件 名            5    教育行政について

中項目          (3)    サン・スポーツランド美唄のテニスコートの  
屋外トイレの水洗化整備について

### 質問内容

サン・スポーツランド美唄にありますテニスコートは、市内外を問わず利用が多いと聞いておりますが、テニスコート横の屋外トイレは、汲み取り式の和式トイレであります。

今の子ども達は水洗の洋式トイレでしか用を足したことがないため、利用者には敬遠されているようですので、トイレの水洗洋式化の整備について伺います。

### 答弁内容

（サン・スポーツランド美唄のテニスコートの屋外トイレの水洗化について）であります。

平成 29 年度につきましては、利用者が多く参集する全道大会などの際には、簡易トイレを設置し、応急的な対応をまいりましたが、大会参加者の方からは、汲み取り式和式トイレに関して不満の意見を多く頂いているところであります。

大会参加者や練習や趣味で利用している方々にトイレ環境を含め快適なスポーツ環境を提供することは、スポーツ人口や交流人口の増加に繋がることが期待されますことから、教育委員会といたしま

しては、屋外トイレの簡易水洗化について、予算の確保に努めてまいります。

平成 29 年 第 4 回 定例会 一般質問

楠 徹也議員  
教育委員会学務課

件 名           2     教育行政について

中項目       (1)    指定管理（市民会館）について

質問内容

本年 9 月定例会の決算委員会において、市の指定管理者選定委員会から、「市民会館の外部委託に関する報告書」が提出されましたが、その後「どういう結論になったのか」との問い合わせや議会報告会においても同様の質問をいただいておりますので、初めに、選定委員会からの報告書をどのように受け止めているのか。伺います。

2 つ目は、報告書に記載されている「新たに出てきた内容について」伺います。

その一つは、音響の保守点検について、市民の財産である高額な音響設備の保守点検が予算計上しているにもかかわらず、行っていなかったという事が報告されていますが、この音響設備の保守点検はしなくてもいいものなのか。また、その必要性も含め、教育長の見解を伺います。

二つ目は、北海道テレビが放映した内容の中の、文化協会職員と教育長の会話が、隠し録音されて放映された件であります。このことは、報告書の中で協定書第 20 条の「情報管理」の規定に抵触しているのではないかと指摘をしていますが、本当に抵触しているのか、どうか、教育長に見解を伺います。



最後に、平成28年度に行われた、清掃業務委託の見積もり合わせについてですが、見積もり合わせは、参加する業者には、同じ内容、同一条件で行うのが基本で、もし、この報告書が事実だとしたら、常識的に考えて、発注者側の誘導による不正行為になるのではないかと思います。このことについて、教育長の見解を伺います。

#### 答弁内容

（市民会館に関する指定管理者選定委員会の報告書について）であります。

今回の件につきましては、疲弊する地域経済を活性化、そして地域を守るために地元業者で出来るものは地元業者に配慮することとした本市の発注の考え方・慣例を示したうえで、美唄市文化協会に対して、指定管理者として市の発注に対する慣例を踏襲できないか協議を重ねてきたところですが、結果として、美唄市文化協会は、「高度な技術」を有する業者であることを根拠として市外業者と契約を締結したところであります。

この報告書では、美唄市文化協会が、今回、音響照明の業務を滝川市の業者に発注したとする理由について、ヒアリングの結果、信憑性に乏しいとの判断をしたものと考えておりますとともに、計5回の選定委員会の中で指定管理者並びにこれまで音響照明業務を受注していた地元業者に対してヒアリング等を実施した結果を纏めたものであり、私としましては、この報告書の内容は大変重い内容であると受け止めております。

信憑性がないとした部分につきましては、選定委員会が判断した結果であります。この信憑性がないとした根底には、美唄市文化協会が累積欠損金を生じた平成25年度以降、この地元業者との見解相違が背景にあるものと判断しているところです。私は、この当時、双方がしっかりと話し合い、そして、この話し合いに教育委員会が指導的立場で、しっかりと助言していれば、このような報告書

の内容にはならなかったものと考え、現在、教育行政を掌る責任者としても責任を感じるところであります。

何れにいたしましても、音響照明業務を含め、この報告書にある清掃等の外部発注については、発注業務に係る美唄市文化協会職員の事務経験不足等から、適切な事務執行が行われなかったことと業者間・教育委員会との信頼関係の構築が図られなかったことなどが、大きな要因であると判断しております。

このことから、現在、教育委員会としましては、双方の信頼関係の再構築に向けて、市民会館利用者のサービス向上に連携して取り組むよう、定期的な情報交換の場を通じ、意見交換を行っているところであります。

次に、報告書に、新たな内容として記載されている音響照明の保守点検の考え方についてであります。市民の財産である音響設備の保守点検業務については、毎年度の指定管理者への委託料の中で予算組みをしていることから、保守点検は、いかなる場合においても執行すべきものと考えております。また、美唄市文化協会からも、この保守点検業務については、今後、適切に執行する旨のお答えを頂いているところです。

次に、北海道テレビ放送の中で文化協会職員と私の会話が録音され放送された件についてであります。外部見識者の方にお聞きしましたところ、私と文化協会職員とのやり取りの会話は、密室の中で行われたのではなく、教育委員会職員と他の文化協会職員がいる中での会話は、一般的な行政事務であり、言わば、公開の会議の中での録音と同じものであり、これが違法かどうかは司法の判断によるのお話を伺ったところです。

この録音を相手の許可なしに外部に渡すことについては、外部見識者の意見は特にお聞きしていませんが、私としましては、「乙である指定管理者は、本業務で知り得た秘密及び甲である教育委員会

の行政事務等で、一般に公開されていない事項を外部に漏らし、又は他の目的に使用してはならない」と規定する協定書第20条の「情報管理」の規定に抵触するものと受け止めているところであります。また、この録音を含め、事実と異なる形で放映した北海道テレビ放送についても、放映する者として法令遵守・責任と品格をもって頂きたいと思うところです。

次に、選定委員会の中で新たな事実として判明した清掃業務委託の発注についてであります。教育委員会で、この報告書を受理した後、改めて、この清掃業務の見積もり合わせに参加した3業者に対して、美唄市文化協会の仕様書説明の方法・内容等をお聞きしたところです。その際、3業者からは、清掃人の常駐、非常駐等について、会社別に異なる内容の仕様書説明を受けていたことを確認したところであります。

このことについて違法かどうかについての考え方についてであります。会社別に異なる内容の仕様書説明を行う行為は、一部の業者を排除し業務を妨害する行為、いわゆる偽計業務妨害になるのではと思うところですが、これが刑法違反になるかどうかは、司法の判断であり、私が見解を述べるものではないと考えております。

平成 29 年 第 4 回 定例会 一般質問

再質問

楠 徹也議員  
教育委員会学務課

件 名           2     教育行政について

中項目       (1)    指定管理（市民会館）について

質問内容

「入札等が事務の不慣れだったため」との答弁ですが、選定委員会のヒヤリングでも、新聞記者や傍聴者がいた公開の場で、協会職員は「違うことは言ってない」「公平公正に行った」と断言していますが、このことに関して、次の 2 点について伺います。

- ①市の発注業務で報告書にあるような仕様書と違う説明を個別に行ったとしたらどうなるのか、教育長の認識を伺います。
- ②今回のように、選定委員会からの報告書の内容のとおり、仕様書の内容を別々に説明するといった行為は、刑法違反になるか、どうかは別にしても、常識的には不正行為だと思いますが、改めて、教育長の認識を伺います。

答弁内容

（清掃業務の見積もり合わせについて ）であります、先ほど、ご答弁しましたとおり、教育委員会が見積もり合わせに参加した業者に聞き取りした結果、仕様書の説明において、美唄市文化協会が公平公正に仕様書説明をしたとするヒヤリング内容と相違していることを確認したところです。しかしながら、どちらが正し

いかどうかは、私が判断できるものではなく、この見積もり合わせに参加した業者等が訴訟手続きを行う等、司法の判断に委ねられるべきものと考えております。従いまして、司法判断の前に教育委員会がグレーゾーンの中で、仮定のもとでの考えを示すべきものではないと考えております。また、市の発注業務において、報告書にあるようなことが仮にあった場合の考え方についても、同様と考えております。

## 平成 29 年 第 4 回 定例会 一般質問

### 再々質問

楠 徹也議員  
教育委員会学務課

件 名            2    教育行政について

中項目          (1)    指定管理（市民会館）について

### 質問内容

最後に一点だけ市民会館について、質問をします。

この問題については、これまで長い時間をかけて、議会で議論され、市民の皆さんの関心も非常に高いことから、これまでの議論経過や法令等を十分踏まえ、教育委員会議の中で、市や教育委員会が市民の皆さんから誤解を招かないよう、しっかりと今後、取り組んでもらいたいと思いますが、教育長の考えを伺います。

### 答弁内容

（今回の件について）であります、

議員のご指摘のとおり長い間、議会で議論をいただき、また市民の皆さんにもご心配などをおかけしておりますことに対しまして、申し訳なく思っております。私としましては、今回の市民会館の件に伴い、美唄市の文化振興の道を閉ざすことは、市民にとって大きなマイナスであると考えております。私は、美唄市文化協会との信頼関係を再構築し、市民が喜ぶ市民会館にしていくこと、意見が違えば議論しながら改善していくことが今、最優先されるべきものと考えているところであり、こうした考えのもと、今後とも、しっかりと取り組んでまいりたいと考えております。

平成 29 年 第 4 回 定例会 一般質問

森川 明議員  
教育委員会学務課

件 名            4     教育行政について

中項目          (1)    全国学力テストについて

質問内容

- ①道と空知との市の平均正答率の状況について
- ②学習状況調査の中学校部活動に対する市の状況について
- ③学習状況調査のスマートフォンや携帯電話の利用時間の全国・全道との比較状況について
- ④今後の改善点について

答弁内容

（本年度の全国学力・学習状況調査の結果について）であります。①はじめに、北海道と空知と比較した本市の平均正答率の状況ですが、全国学力・学習状況調査の学力結果は、数値で公表しておらず、各自治体の教育員会で、調査結果の全国比や全道比等と比較する「結果の表現の仕方」を決めているところであります。

本市におきましては、本市の結果と対象となる道、空知の結果の差がプラスマイナス１パーセント未満を「同様」、１％以上３パーセント未満を「ほぼ同様に高い、低い」、３％以上を「やや高い、やや低い」という表現方法によりホームページなどで公表しているところです。

なお、各教科のアルファベットの「A」は基礎問題、[B]は応用問題

となっているところです。

はじめに、小学校国語Aにおいては、北海道、空知ともに「ほぼ同様に低く」、小学校国語Bにおいては、北海道より「やや低く」、空知と比べて「ほぼ同様に低く」なっております。小学校算数Aにおいては、北海道、空知ともに「同様」であり、小学校算数Bにおいては、北海道と「ほぼ同様に低く」空知と「同様」であります。

次に、中学校国語Aにおいては、北海道と「同様」であり、空知と比べて「ほぼ同様に高い」結果になっております。中学校国語Bにおいては、北海道と「ほぼ同様に高く」、空知にくらべると「やや高く」なっております。中学校数学Aについては、北海道、空知ともに「同様」であります。

中学校数学Bにおいては、北海道と「同様に低く」空知と「同様」であります。

②次に、生徒質問紙の部活動に関する調査の結果についてであります

本年度から中学校の生徒質問紙には、部活動についての質問が2項目盛り込まれるようになり、そのひとつ「学校の部活動に参加していますか。」という質問では、本市においては、「運動部に参加している」が51.9%、「文化部に参加している」が27.9%で、合計79.8%の生徒が部活に加入しております。

これは、全国に比べて6.8ポイント低く、全道と比べると3.4ポイント高い結果となっております。

2つめの「月曜から金曜日において、1日どれくらいの時間、部活動をしますか」という質問では、2時間以上3時間未満と答えた生徒が、57.8%と最も多く、全国と比べて13.8ポイント多く、全道と比べても10.8ポイント高い結果となっており、1時間以上2時間未満と答えた生徒は10.4%であり、全国と比べ18ポイント少なく、全道と比べて5.2ポイント少なくなっております。



③次に、携帯電話やスマートフォンの利用時間について でありませんが、

「月曜から金曜日に、どれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンを使って通話やメール、インターネットをしますか。」という質問で、小学校では、1 時間以上利用していると答えた児童が 38.7% になり、全国と比べて 18.2 ポイント高く、全道と比較して 13.1 ポイント高くなっております。

また、中学校では、1 時間以上利用していると答えた生徒が 57.1% になり、全国と比べて 6.7 ポイント高く、全道と比べて 1.3 ポイント高くなっております。

④次に、全国学力・学習状況調査から見られる今後の改善点についてであります、

はじめに、学力調査の結果から見られる改善点であります、小学校の国語・算数については、空知とほぼ同様であります、北海道と比べると、やや低い部分もあり、国語の指導計画の中で、児童が身に付ける力を明確に示して授業を進めていくことが必要であると考えております。

また、中学校国語・数学については、空知と北海道と比べるとともにほぼ同様となっております、中学校においても、生徒が身に付ける力を明確に示して授業を進めていくことが必要であると考えております。

次に、学習状況調査の結果からみられる改善点であります、本市の児童・生徒は、部活や携帯・スマートフォンを利用する時間等に費やしていることから、家庭における学習に向かう時間が、全国・全道と比べると少ない結果となっております。

教育委員会といたしましては、全国学力・学習状況調査と今年度から小学 3、4 年と中学 1 年も実施することになった標準学力テストの結果を詳細に分析し、改善方策を「確かな学力育成プラン」に纏め、すべての教職員に配布し、このプランを基に授業改善を図ってまいります。また、保護者に対しては、「確かな学力育成プラン概

要版」と家庭教育の啓発に向けた「家庭教育の手引き」を配布し、家庭・地域・学校が一体となって、より質の高い教育の実現を目指してまいりたいと考えております。

平成 29 年 第 4 回 定例会 一般質問

再質問

森川 明議員  
教育委員会学務課

件 名            4     教育行政について

中項目          (1)    全国学力テストについて

質問内容

- ①正答率に、小学校、中学校ともに国語が低い点が気になります。各能力の弱さ、記述問題の無回答率、市の状況はどのようなになっているのか。
- ②部活動の調査実態、2 時間～3 時間未満が全国・全道より多い点、教員の長時間労働にも結び付いているのではないか。
- ③携帯、スマートフォン利用時間が多く、家庭学習が少ない状況をどのように理解分析しているのか。
- ④市の結果をふまえ、都市と地方格差が見られたのか。
- ⑤学力テストは全員参加方式を改め、抽出方式に切り替え、財源を教育現場予算として手厚くすべきと思われる。

答弁内容

（全国学力・学習状況調査の結果の分析について）であります。国語の記述問題の無回答率の状況ですが、小学校、・中学校別、科目別で申しますと、本市の小学校国語 A においては、無回答の児童は 0 となっており、小学国語 B においては、記述問題が複数ありますので平均 5.3 %が無回答となり、全国より 2.3 ポイント、全道より 1.8 ポイント、無回答が多くなっているところです。中学校

国語Aの無回答率は、平均1.5%となっており、全国より0.2ポイント少なく、全道より0.4ポイント少なくなっています。中学国語Bにおいては、無回答率が17.5%となり、全国より3.2ポイント多く、全道より0.1ポイント少なくなっております。

この無回答率の傾向につきましては、中学校より小学校が無回答率の割合が高く、小学校・中学校ともに問題が難しくなるB問題で無回答が多くなっているところです。

また、記述問題の平均正答率を全国・全道と比べると、本市の小学校国語Aの記述問題の正答率は全国より「ほぼ同様に高く」、全道より「やや高く」なり、小学国語Bの記述問題の正答率は、全国より「やや低く」、全道よりも「やや低く」なっている状況です。

また、中学校国語Aの記述問題の正答率は、全国より「ほぼ同様に高く」全道よりも「やや高く」なっており、中学国語Bにおいては、全国よりも「やや高く」また、全道よりも「やや高く」なっているところです。

この記述式の正答率の傾向について、小学校・中学校別のA問題・B問題別で申しますと、小学校B問題においては、無回答率が全国・全道より高く、平均正答率も「やや低くなっており、中学校では、B問題で無回答率が全国より多いですが、正答率はやや高くなっております。

何れにしましても、国語は、小学校、中学校とも、「読む」「書く」が基本で、すべての科目のベースになりますことから、教育委員会といたしましては、学力向上プロジェクトチームの提言を基に、ICT機器の活用やノート書き方指導を徹底し、書くこと、読むことに対する意識を高め、国語の学力向上に努めてまいりたいと考えております。

次に、部活動の調査実態についてであります。本年度の調査によりますと、部活動を2時間未満の短時間で行っている割合は、全国

では44％であり、全道で39.1％、本市においては、30.5％となっており、本市の部活動時間は、全国・全道と比べて、時間が長く行われているところであります。

このことは、結果的に、教職員の負担増になっていることから、教育委員会といたしましては、教職員の退勤が遅くならないよう放課後の2～3時間程度で活動が終わることができるよう、各中学校指導してまいりたいと考えております。

次に、携帯・スマートフォンの利用時間についてであります、本年度の調査では、小学校における携帯・スマートフォンの利用時間は、昨年より13ポイント多くなっており、中学校では、5.7ポイント程少なくなっておりますが、一方で、中学校では、テレビゲームをする時間が7ポイント程多くなっております。

このことから、小学校、中学校とも、これら携帯・スマートフォン、テレビゲームなどに費やす時間が多いことが、結果として、家庭学習の時間が少なくなっている一要因と考えられるところであります。

特に、携帯・スマートフォンについては、児童生徒だけ利用を制限するのではなく、保護者を含め、家庭全体での取り組みが重要であることから、教育委員会といたしましては、「家庭学習の手引き」等を通じ、家庭でのルールづくりを推進してまいりたいと考えております。

次に、全国学力・学習状況調査の結果の都市部と地方の格差についてであります、

数値を公表している札幌市と本市を比べると、小学校においては、国語Aは、札幌市より「ほぼ同様に低く」、国語Bは「やや低い」、算数Aは「同様」、算数Bは「やや低い」結果となり、中学校においては、国語Aは「ほぼ同様に低く」、国語Bは「やや低く」、数学Aは「ほぼ同様に低く」、数学Bは「やや低い」という

結果になっており、本市の小学校・中学校の児童生徒は、総じて札幌市よりも平均正答率が低い結果となっております。

このことは、札幌市と本市における教育環境の違いが大きな要因と考えられることから、教育委員会といたしましては、平成 32 年度、平成 33 年度に小学校、中学校の学習指導要領が全面改訂されることに合わせ、教育環境の充実、特に ICT 機器の整備し、本市の児童生徒の学力向上を図ってまいりたいと考えております。

次に、全国学力・学習状況調査の参加方法についてであります、この調査は、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図ることを目的に、平成 19 年度より行われ、途中、震災の影響で一部中止や中止となることもありましたが、今年で 11 年目を迎えたところです。

教育委員会といたしましては、この調査は、継続して参加し、結果を調査・分析することが、本市の児童生徒の学力向上に繋がるものと考えておりますことから、今後とも、現行の方法で参加して参りたいと考えております。

平成 29 年 第 4 回 定例会 一般質問

再々質問

森川 明議員  
教育委員会学務課

件 名            4     教育行政について

中項目          (1)    全国学力テストについて

質問内容

①「確かな学力育成プラン」作成にあたり、生活習慣や学習習慣に関する調査、初めての中学校部活動に関する調査内容と分析結果を掲載の予定なのか。

②全国学力テストは、全員参加方式から抽出方式にすべきとの議会定例会で質問等あったことを空知教育局、道教育委員会に伝えていただきたい。

答弁内容

（質問紙調査の部活動についての結果・分析を「確かな学力育成プラン」に掲載する予定なのかについて）であります、

①今年度、初めて質問項目となった中学校部活動に関する調査結果と分析結果については、来年度の「確かな学力育成プラン」に反映させてまいりたいと考えております。

②全国学力テストについて、全員参加方式から抽出方式にすべきとの意見が市議会質問であったことについては空知教育局に伝えさせていただきます。

平成 29 年 第 4 回 定例会 一般質問

谷村 知重 議員  
教育委員会学務課

件 名            3     教育行政について

中項目          (1)    スポーツ振興による健康なまちづくりについて

質問内容

①スポーツ健康都市宣言について

宣言後の取り組んだ内容と教育委員会で作成したリーフレットにある施策展開について伺います。

②ピパオイヘルシーロードレースについて

近年の参加者数とこれまでの規模拡大の取組みと今後の参加者数を増やし特色ある大会としての拡充について伺います。

③サン・スポーツランド周辺のスポーツ施設の利用状況と今後について

施設利用状況と今後の整備について伺います。

答弁内容

（はじめに、（①スポーツ健康都市宣言後の取組みについて））  
であります、

昨年、美唄ライオンズクラブから、この宣言の内容が記載されたポスターを 100 枚寄贈していただき、市内小中学校及び公共施設等に掲示したところでございます。また、教育委員会では、リーフレットを作成し、各スポーツ施設に配置するとともに、各大会のプログラムに挟み込み PR したほか、広報誌メロディーを活用するなど



により、市民への周知等に努めてまいりました。

この宣言は、運動・スポーツ習慣の定着と健康づくりの継続を通じ、すべての市民が健康でいきいきと暮らすことのできるまちづくりを目指すことを趣旨とし、世代共通の運動、高齢期、壮年期、青少年期、乳幼児期等々、ライフステージに応じた具体的な活動を展開することとしております。

これまでの活動状況につきましては、平成 28 年度には親子ウォーキングを実施したほか、昨年 10 月末にボルダリング壁が完成したことからクライミング体験会を行うとともに、既存のスキーハイキング、アルペンスキー大会など「スポーツ健康都市宣言記念事業」を冠として、様々な協賛行事を開催してきたところです。

平成 29 年度につきましても、様々な行事を開催する際に、スポーツ健康都市宣言していることを行事・会議挨拶の中で触れながらスポーツを通じたまちづくりの推進に取り組んできたところであります。

次に、②（ピパオイヘルシーロードレースについて）であります

が、ヘルシーロードレースの参加者数は、平成 27 年度 1,047 人、平成 28 年度 1,054 人、平成 29 年度 972 人となり、過去 3 年間でおおよそ、1,000 人規模の大会に成長、拡充したところであります。

これは、近年のマラソンブームに加えて、平成 23 年までは完走証のみの交付であったものを、平成 24 年から各部門 1 位から 3 位までを表彰することとしたことや北海道内でも数が少ない車いすで参加できるマラソン大会であることも、参加者の増加に繋がったものと判断しているところでございます。

今後の規模拡充につきましては、大会運営は、美唄市陸上競技協会や陸上自衛隊美唄駐屯地などの関係機関をはじめスポーツ推進委員、市内競技団体や市内企業のほか中学、高校の陸上部の生徒など

のボランティアによる支えによって運営されておりますが、近年では、ボランティア従事者の確保に苦慮している状況にありますことから、教育委員会といたしましては、こうした課題を踏まえ、大会運営に関わるスタッフの確保に努めるとともに、引き続き前年参加者への開催案内の送付や美唄市の特産品や食の提供ができる販売ブースの拡充など、美唄の特色を生かしながら、これまで以上に多くの参加者が望める大会となるよう、大会実行委員会の中で協議検討してまいりたいと考えております。

次に、③（サン・スポーツランド周辺のスポーツ施設の利用状況と今後について）であります。

平成 28 年度開設期間 5 月から 10 月の各施設の利用状況につきましては、テニスコート 14,437 人、多目的グラウンド 920 人、野球場 641 人、陸上競技場 958 人となっておりますが、現在、野球場につきましては、公園施設長寿命化計画に基づき改修整備を進めているところであります。

今後のサン・スポーツランドの周辺施設の整備についてであります。現在進めている野球場の改修工事と同様、陸上競技場については、メインスタンドを除く全面を、テニスコートはクレートコート（注）の整備とフェンス整備などを公園施設長寿命化計画の中での改修を見込んでいただいております。

平成 29 年 第 4 回 定例会 一般質問

再質問

谷村 知重 議員  
教育委員会学務課

件 名            3     教育行政について

中項目        (1)    スポーツ振興による健康なまちづくりについて

質問内容

陸上競技場の整備については、練習に特化した施設改修などになると札幌圏などからのトレーニングの需要があると聞いているが、そのような整備についての考え方を伺います。

答弁内容

（陸上競技場の整備について）であります。

陸上競技場は公認競技場としての更新を行っていないことから、現在、公式大会などが開かれない状況であり、現在、市内中学、高校の陸上部の部活動や美唄市陸上競技協会のジュニアアスリートクラブの少年団活動に利用されているところであります。

また、フィールド内につきましては、投てきや高跳びサークル並びに幅跳びの砂場などを撤去し芝生化することによって競技種目の幅が広がり、サッカーや合宿実績のあるラクロスなどの競技種目の利用が見込めることから、関係団体等から、芝生化整備についての要望を頂いているところであります。

教育委員会といたしましては、スポーツ振興による健康なまちづくりをより一層推進していくため、美唄市陸上競技協会のご意見や新たな種目の見込みなどのニーズを調査しながら、どのような整備

が将来にわたり有効であるか、また財源の確保も含め、総合的に検討してまいりたいと考えております。

平成 29 年 第 4 回 定例会 一般質問

川上 美樹 議員  
教育委員会学務課

件 名            2     教育行政について

中項目          (1)    いじめについて

質問内容

①市内小中学校における、いじめの実態について

②いじめ行為への対策について

答弁内容

（本市のいじめの状況について ）であります、

①北海道教育委員会で年 2 回実施している児童生徒に対する「いじめアンケート」の 6 月調査の結果では、4 月から「いじめられたことがある」と答えた小学生が 60 名、中学生が 17 名であります。11 月のアンケートについては、アンケートの様式の変更により、いじめられたことがあるという表現が「4 月から嫌な思いをしたことがある」に変わり、これに回答した小学生が 139 名、中学生が 28 名と増加するなど、学校生活を送る中で、様々な要因から、年度当初と比較し、いじめまたは嫌な思いをしたことがある児童生徒が増える傾向が伺えるところであります。

また、アンケートから読み取れる内容につきましては、「悪口を言われる」が一番多く、次いで「たたかれる、けられる」「仲間外れや無視される」となっております。

②次に、いじめ行為への対策について ありますが  
アンケートにより、いじめを受けていると回答した件数については、いじめの事実がないと確定したものを除いた件数が、各学校のいじめ解消に向けた案件となります。これら案件については、各学校で策定している「学校いじめ防止基本方針」に従い、個人面談や家庭訪問を実施するとともに、いじめの問題を取り上げた道徳の時間や児童・生徒会の中で、子どもたちが主体的にいじめの問題について考える取り組みを行っているところであります。  
教育委員会としましては、これまで、教育委員会で作成しました美唄市いじめ防止基本方針によりいじめの相談体制の強化、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの配置、学校におけるいじめ防止等の取り組みの点検・充実に向けて取り組んでいるところであります。教育委員会といたしましては、いじめは決して許されない、些細な兆候でもいじめの疑いを持つこと、迅速・的確かつ組織的な対応をすること、PTA や青少年育成協議会等との連携や協働体制の構築、さらには警察、児童相談所、医療機関との連携、情報共有を密にし、いじめの未然防止、早期発見、早期解決を図ってまいりたいと考えております。

平成 29 年 第 4 回 定例会 一般質問

川上 美樹 議員  
教育委員会学務課

件 名           2     教育行政について

中項目       (2)    市内小中学校におけるセキュリティについて

質問内容

平成 29 年の教育行政執行方針にもありますが、「学校への外部からの侵入者対策」について述べられております。教職員玄関や、生徒玄関は授業中、施錠されている状態が必要かと思いますが、体育や昼休みの時間帯、行事がある場合など、外への出入りが必要になり、常に施錠することも不可能な場合があるかと思います。

そのため、教職員玄関のインターホンは全ての学校に設置すべきだと思いますし、生徒玄関には、防犯カメラの設置もできれば必要ではないかと思います。また、教職員玄関にはまだ、インターホンが設置されていない学校があると伺っておりますが、このことについては、どのようにお考えか、教育長に伺います。

答弁内容

（学校におけるセキュリティ対策について）であります、小中学校の児童・生徒玄関については、授業中は施錠を基本とし、来校者については、インターホンや受付窓口により、用件や身元を確認するなどをした上で対応をしているほか、学校行事など施錠が難しい場合については、管理職や教職員の見守りや巡回などで対応をしております。

また、夜間・休日等につきましては、警備会社による機械警備により、外部からの侵入防止の対策を講じているところです。

なお、教職員玄関のインターホンにつきましては設置に向けて取り組むとともに、防犯カメラにつきましては、今後、検討してまいりたいと考えております。



平成 29 年 第 4 回 定例会 一般質問

川上 美樹 議員  
教育委員会学務課

件 名            2     教育行政について

中項目          (3)    中学校における「部活動の在り方」について

質問内容

学校現場を取り巻く環境が複雑化・多様化し、学校に求められる役割が拡大する中、教員の長時間勤務の改善が課題となっています。学習指導要領の改訂の動向等を踏まえた授業改善に取り組む時間や、教員が子供と向き合う時間を確保し、教員一人一人が持っている力を高め、発揮できる環境を整えていく必要があります。

このような観点から、文部科学省では、平成 28 年 4 月に「次世代の学校指導体制にふさわしい教職員の在り方と業務改善のための組織」を省内に設け、部活動における休養日の設定の徹底をはじめとした運営の適正化の必要性等を示していますが、部活動については、教育的効果が十分にあるところと認識は、しております。

そこで、次の 2 点について伺います。

- ①市内の中学校における部活動の加入率、稼動日数や時間、休養日がどのような状況になっているのか。
- ②教員、保護者、地域住民などから、部活動に対してどのような意見がよせられているか。

答弁内容

(中学校の部活動について) であります。

①平成 29 年度全国学力・学習調査の生徒質問紙の部活動調査結果で申し上げますと、運動部に参加しているが 51.9%、文化部に参加しているが 27.9%で、合わせて 79.8%となっております。

次に、本市の部活動の状況についてであります。道教委が、本年 10 月に実施した「平成 29 年度教職員の時間外勤務等の縮減に向けた重点取組項目等の取組状況調査」の本市分の結果で申し上げますと、本年 4 月から 9 月までの平日の活動時間では、市内 4 校 20 部のうち、2 時間以内で活動を終了した部活は 4 部で 20%、3 時間以内で活動を終了した部活は 16 部で 80%となっております。

また、休日の活動時間では、半日以内で活動を終了した部活は 6 部で 30%、半日を越える活動時間の日があるが、おおよそ休日の活動の半数未満であった部活は 11 部で 55%、半日を越える活動時間の日があるが、おおよそ休日の活動日の半日以上であった部活は 2 部で 10%、休日の活動がない部活は 1 部で 5%となっております。

②次に、部活動に対してのご意見についてであります。保護者からは顧問の異動に伴う後任の配置や新しい部の創設などの要望をいただいているところであります。また、教員からは、教材準備や通勤、家庭の事情で部活動の顧問を続けることが負担であること、また顧問が不足しているという声や競技経験のない種目を担当しなければならない場合の不安感などを伺っております。

平成 29 年 第 4 回 定例会 一般質問

再質問

川上 美樹 議員  
教育委員会学務課

件 名            2     教育行政について

中項目          (3)    中学校における「部活動の在り方」について

質問内容

中学校における部活動の在り方についてですが、佐賀県では、最も大会の開催が少ない第 3 日曜日を完全休養日とし、やむを得ず大会が行われた場合は他の日曜日と振り返るようにした事例があります。

また、第 1， 3， 5 の土曜日は学習活動を優先させる、長期休みの前に休業中の活動計画を生徒と保護者に示すことを市内の学校へ通知し、実施してもらうなどを検討すべきと思います。

更に部活動講師の外部委託についても、教師の負担軽減の為、各学校と十分に話し合い、検討をしていくべきと思いますが教育長のお考えを伺います。

答弁内容

(中学校における部活動のあり方について ) であります、

現在、スポーツ庁において、練習時間や休養日の設定、指導の充実、部活動指導員等の活用などについて考慮が望まれる基本的な事項や留意点をまとめた「運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」を策定することとしておりますので、このガイドラインを参考に、保護者や学校現場の意見を聞きながら担当する教員の軽

減負担に努めるとともに、土曜日の部活動の在り方について検討してまいりたいと考えております。

次に、部活動の外部指導者の配置についてであります。教職員の軽減負担を図るため、文部科学省は、本年度から、中学校と高校の部活動の外部指導員を学校職員として位置づけ、教員がいなくても単独で指導や大会への引率を行えるように学校教育法において制度化したところであります。

この制度化に伴い文部科学省では、教員の働き方改革の中で、指導員の役割や責任の明確化、事故が起きた際の補償等について検討しているところであり、教育委員会としましては、これら改革の内容を踏まえ、必要な対応をしてまいりたいと考えております。

平成 29 年 第 4 回 定例会 一般質問

川上 美樹 議員  
教育委員会学務課

件 名            2     教育行政について

中項目          (4)    全国学力テストについて

質問内容

「学力向上プロジェクトチーム」の活動状況について

答弁内容

（学力向上プロジェクトチームの活動状況について）であります  
が、

学力向上プロジェクトチームは、市内教職員で構成され、全国学  
力・学習状況調査や標準学力検査の結果を分析し、本市の児童・生  
徒の学力に係る達成状況や傾向、課題の把握を行うとともに、その  
要因を探り、改善に向けた方策を検討し、児童・生徒に生きる力を  
育むことを目的としております。

今年度は、従来、小学 2 年・ 5 年と中学 2 年の三つの学年で行って  
いた標準学力テストを、同一学年の経年変化を把握するため、小学  
校では、 3 年・ 4 年、中学校では 1 年を追加し、授業改善を図るこ  
ととしたところであります。

今後につきましては、義務教育 9 年間の経年変化を分析し、中 1 ギ  
ャップの解消や教師の授業改善を図るため、さらに小学 6 年と中学  
3 年を追加して実施することを検討してまいりたいと考えておりま  
す。教育委員会といたしましては、プロジェクトチームの分析・改

善の内容について、「確かな学力育成プラン」として取りまとめ、冊子として美唄市全ての保護者・教職員に配布するとともに、「確かな学力育成プラン概要版」及び「家庭学習の手引き」も作成し、保護者・教職員に配布し、家庭・地域・学校が一体となって、学力向上の取り組みを進めてまいりたいと考えております。

平成 29 年 第 4 回 定例会 一般質問

再質問

川上 美樹 議員  
教育委員会学務課

件 名            2     教育行政について

中項目           (4)    全国学力テストについて

質問内容

次に、「学力向上プロジェクトチーム」についてですが、その目的はわかりましたが、今回の結果をみましても、多くの科目に付いては、まだまだ全国・全道平均を上回っておりません。どの学年においても、毎年、ある程度の成果を出すことのできる「プロジェクトチーム」の在り方が問われると思いますが、このことについて、教育長のお考えを伺います。

答弁内容

（学力向上プロジェクトチームの在り方について）であります。本年度の全国学力・学習状況調査の結果につきましては、小学校・中学校において、全国・全道と比べると、算数 A が全道と同様となりましたが、他 3 科目は全国・全道を下回り、また、中学校では、数学 B が全国を上回りましたが、他 3 科目が全道を上回ったものの、全国を下回ったところです。

この結果を受け、学力向上プロジェクトチームでは、本年度取り纏めた「確かな学力育成プラン」の中で、学校、家庭と地域、教育委員会の取組を棲み分けし、学校においては、学習規律の浸透とアクティブラーニングの具現化、ALT・外国語指導助手を有効的に活

用した外国語活動等の促進、学びの連続性の観点から、幼保・小中高の連携教育の実践、朝読書の充実と補充的な学習の充実、校内研修、教材研究の活性化についての取組の推進を、

家庭・地域においては、早寝、早起き、朝ご飯の徹底、携帯・スマートフォン、ゲーム機使用における約束ごとの徹底、家庭学習等の手引き等を活用、地域行事への積極的参加を、

教育委員会においては、教職員の専門研修の一層の充実、長期休業中における学生ボランティアの活用、地域支援本部事業の活用、ICTの整備等、教育環境の充実、家庭学習の手引きの発行等、家庭への啓発活動を、それぞれプランの中で取り纏めたところであります。

教育委員会といたしましては、このプランの内容を学校、家庭、地域、教育委員会が連携して積極的に取組み、本市の児童生徒の学力の底上げを図ってまいりたいと考えております。



平成 29 年 第 4 回 定例会 一般質問

川上 美樹 議員  
教育委員会学務課

件 名	2	教育行政について
中項目	(5)	小中学校における「補充学習」・「習熟度別学習」について

質問内容

- ①「補充学習」の実施状況について
- ②「習熟度別学習」の実施状況について

答弁内容

（小中学校における補充学習や習熟度別学習の状況について）でありますが、

①はじめに、補充学習とは、児童の理解や習熟の状況等に応じ、授業のほかに、放課後や長期休業中等に行う勉強であり、学習指導要領に示されている基礎的・基本的な内容の確実な定着をねらいとした学習指導であります。

本市の小中学校の補充学習の状況であります。全ての学校において、放課後や長期休業中に3日～5日間、チャレンジテストや各自の課題解決のために、各学校に登録している地域支援ボランティアや学校サポート事業ボランティアの大学生3名と教師が一体となって取り組んでいるところです。

②次に、習熟度別学習の状況について であります。習熟度別学習は、授業の際に習熟度に応じて、複数のクラスに編成

し直し、各クラスで習熟度に応じ学習したり、学級内で別々のコースで学習する方法であり、児童生徒を習熟度別・小人数に分けることにより、児童・生徒の一人ひとりに目が届きやすく、きめ細かな指導が行うことができ、子どもに確かな力を身に付けさせることができるメリットがあると考えております。

本市の小中学校の補充学習の状況であります。東小学校や東中学校、美唄中学校など、比較的、教師の人数が多い学校で行われており、国語・算数・数学・英語科の教師や加配教員、専科教員等が習熟度別に指導しているところです。

平成 29 年 第 4 回 定例会 一般質問

再質問

川上 美樹 議員  
教育委員会学務課

- |     |     |                             |
|-----|-----|-----------------------------|
| 件 名 | 2   | 教育行政について                    |
| 中項目 | (5) | 小中学校における「補充学習」・「習熟度別学習」について |

質問内容

公設民営塾設置の設置について

答弁内容

（公設民間塾の設置について）であります、

この公設民営塾は、塾や予備校などが少ない地域等において、自治体が設置し、民間学習塾が運営する形態であり、近年、塾のない地域にある高校を中心に、全国的には、少しずつ増加しているところですが、道内の高校、小学校や中学校において公設民営塾を設置している自治体は、まだ少ない状況となっているところです。

道内では、足寄町で、生徒の学力向上を支援し、進学実績を向上させることで魅力アップを図り、生徒数確保や高校存続を行政として後押しすることを目的に、足寄高校の生徒を対象にした公設民営型の学習塾を開設しているところです。

本市におきましては、高校が 2 校あることや民間学習塾が複数あることなどから、設置が可能かどうか、他市町の取組を参考に調査研究してまいりたいと考えております。

川上 美樹 議員  
教育委員会学務課

件 名           2     教育行政について

中項目       (6)    図書館について

### 質問内容

活字離れが進む中、活字情報の総本山といわれる図書館は、その役割が問い直され、少ない予算と人員での活動が余儀なくされています。全国の、岐路にたつ公立図書館は多彩なサービスで来たくなる場所にしなくてはならないと考えます。

本市におきましては、指定管理者制度が提案されておりますが、市民から頂いたご意見には、今までのサービスを低下させてほしくない、という意見が多く寄せられています。

また、昨年 11 月に高市総務大臣は、単純なコスト削減を目的に民間事業者運営に運営して貰っても必ずしも運営の改善に繋がらないという認識をしめました。

そこで、「街づくりの一貫として、地方創生に繋がるよう」にコスト削減にどのように付加価値をつけることが重要になってくるものと思います。

指定管理者は自治体と協定を結ぶと一定額の資料費が確保されますが、これを使って市民サービスの低下なく、また付加価値を産む工夫をするのかが大きな今後の課題になると思います。そこで 1 点ですが、今後の図書館における運営のありかたについては、どのように考えているのか、教育長にお伺い致します。

## 答弁内容

（図書館の運営のあり方について）でありますが、

これまで図書館では、市民の求める情報や生活を豊かにする知識、学習や研究のために役立つ資料などの収集に努めるとともにこれらを広く市民に提供し、その生涯学習活動に寄与して参りました。

今後の図書館の運営の在り方についてであります。指定管理者制度が導入された場合におきましては、指定管理者と交わす協定書及び管理の詳細を指示する管理仕様書に基づき図書館の管理運営を代行していただくとともに、その業務の実施状況については、モニタリング調査等により検証評価し、市民サービスの維持・向上に努めてまいりたいと考えております。

平成 29 年 第 4 回 定例会 一般質問

再質問

川上 美樹 議員  
教育委員会学務課

件 名            2     教育行政について

中項目          (6)    図書館について

質問内容

具体的なサービスの在り方に付いては、今後、市教委と指定管理者とでの決めていくかと思いますが、兵庫県三田市では、「視覚障がい者むけ利用支援サイト」を開設、音声化対応の電子図書の貸し出しサービスに乗り出しました。視覚障がい者でなくても、音声化した本を耳で聞くというサービスは高齢者や福祉施設などでも有効に使えるのではと思います。また、兵庫県明石市の図書館は、ＪＲ明石駅前に移転させたことで、学生や若い方の利用が増え、市内交通の便も駅ならば良いため、市民も集まりやすく、足を運ぶ人が増えたという事例もあります。

佐賀県の伊万里図書館では、いわゆる貸し出すことのほとんどない、「動かない本」を身近な話題や地元との係わりのある人が登場する記事と組み合わせると関心を持ってもらえるなどの工夫をしているとの事、先日、本市図書館において、昭和 21 以前の古い新聞が見つかったとの事で、これらの事とあわせて、どんな話題なら利用者の関心と呼ぶのか、

さらに、学校図書館と緊密な関係を構築している潮来図書館、また図書館に来たことがない市民をどのように呼ぶのについては、例として小中学校の卒業記念文集などの地域情報をおくなど、利用者の

裾野を広げることを行っています。

今後、活字離れが進む中、図書館を取り巻く環境は厳しいと思いますが、パブリックコメントの中にある市民の心配を払拭していただき、サービスの工夫で図書館が地域の拠点として根付くものと考えますが教育長のお考えを伺います。

#### 答弁内容

（図書館サービスについて）であります。

本市では、これまでも高齢者や視力が弱い方々のため、朗読テープや活字が通常より大きな図書を揃えているほか、図書館から離れた地域の方々にも図書を読んでいただく機会を提供するため、移動図書館事業を実施しているところであります。

情報化社会が急速に進展する中、ネットによる本の購入や SNS を活用し調査研究や課題解決するなど、ライフスタイルの多様化に伴い、特に若い年代層を中心に年々図書館離れが進んでおりますが、図書館は、あらゆる情報を 1 箇所で提供しうる「ワンストップサービス」機関であり、かつ職員がそれを案内するサービス機能を有するなど、書店やインターネットなど、他のメディア提供手段にはない特性を有しているところであります。

教育委員会といたしましては、指定管理者制度が導入された場合、指定管理者と連携し、これら特性を活かしたサービスの構築に努めていくとともに、他の自治体や指定管理者制度を導入した図書館の取組なども参考にしながら、市民にとって魅力ある図書館づくりを進めてまいりたいと考えております。

平成 29 年 第 4 回 定例会 一般質問

吉岡 文子 議員  
教育委員会学務課

件 名           1     性的少数者について

中項目       (1)    本市の性的少数者に配慮した対応について

質問内容

①性的少数者への認識について

②研修について

答弁内容

（性的少数者への認識について ）であります。

①文部科学省では、教職員向けに、本年 4 月 30 日、「性同一障害に係る児童生徒に対するきめ細かな対応の実施等について」を通知し、その中では、学校現場における性同一性障害に係る児童生徒への支援について示されているところであります。

具体的には、服装については、自認する性別の制服や衣服、体操着を認めること、

髪型については、戸籍上男性の場合、標準より長い髪形を一定の範囲で認めること、更衣室については、保健室や多目的トイレの利用を認めること、トイレについては、職員トイレや多目的トイレの利用を認めること、呼称については、校内文書を児童生徒が希望する呼称で記することや自認する性別として名簿上扱うこと、

授業については、体育又は保健体育において別メニューを設定すること、



水泳については、戸籍上男性の場合、上半身が隠れる水着の着用を認めること、

補習として別日に実施することやレポート提出で代替すること、運動部の活動は自認する性別に係る活動への参加を認めること、修学旅行等については、一人部屋の使用を認めることや入浴時間をずらすことなど、性同一障がいに係る児童生徒の対応を示しているところです。

教育委員会では、本市の小中学校においては、このような配慮をしている児童生徒は、0名と把握しているところでありますが、申し出ができなく一人で抱え込んでいる子どもがいないか、日ごろから児童生徒の様子を注意深く見守っていくとともに、配慮を必要とする児童生徒が把握できた場合は、学校においては、

その児童生徒への配慮と他の児童生徒への配慮との均衡を取りながら支援を進めることが重要と考えています。当該児童生徒が有する違和感の強弱等に応じ支援は様々であり、この違和感は成長するに従い減ずることもあり得ることから、教育委員会といたしましては、学校として先入観を持たず、その時々児童生徒の状況等に応じた支援を行うことが必要であると認識しているところです。

また、保護者が、その子供の性同一性に関する悩みや不安等を受容している場合は、学校と保護者とが緊密に連携しながら支援を進めていくことが必要であるとともに、保護者が受容していない場合にあっては、学校における児童生徒の悩みや不安等を軽減し問題行動の未然防止等を進めることを目的として、保護者と十分話し合い、可能な支援を行っていくことが必要と考えるところです。

②次に、研修についてであります。教職員の資質向上の取組として、生徒指導担当者や養護教諭を対象とした研修を実施するとともに、学校の管理職についても、性同一障がいに関する研修会等を通じ適切に理解していただくことに合わせ、学校医やスクールカウンセラーの研修等で、性同一障がい等を取り上げることも重要である

と考えております。教育委員会といたしましては、今後、実施される研修会等において、テーマとして取り上げ、教職員が共通認識のもと、適切な対応をしてまいりたいと考えております。

平成 29 年 第 4 回 定例会 一般質問

吉岡 文子 議員  
教育委員会学務課

件 名           2     教育行政について

中項目       (1)    市内の中学校の制服について

質問内容

①市内 4 中学校の制服の金額について

- ・各学校の制服の販売価格について伺う。
- ・10 年前との価格の変動について

②各行の制服着用に関する取り決め等について

- ・制服着用が必要な行事等について伺う。

③就学援助の入学準備金について

- ・入学準備金の金額
- ・制服代は含まれているのか伺う。

答弁内容

(市内中学校の制服について) であります。

①市内 4 中学校の制服の金額について税込価格で申し上げますと、

・美唄中学校の男子については、ブレザー、スラックスとネクタイを合わせて、35,942 円から 39,852 円、

女子については、ブレザー、ベスト、スカートとリボンを合わせて、41,688 円から 47,628 円

・峰延中学校の男子については、ブレザー、スラックスとネクタイを合わせて、38,992 円から 40,716 円、

女子については、ブレザー、スカートとリボンを含わせて、36,525 円から 37,713 円

・東中学校の男子については、ブレザー、スラックスとネクタイを含わせて、34,959 円から 38,664 円、

女子については、ブレザー、ベスト、スカートとリボンを含わせて、40,024 円から 46,008 円

・南美唄中学校の男子については、上着とスラックスを含わせて、25,000 円から 30,780 円、

女子については、上着とジャンパースカートを含わせて、29,800 円から 37,800 円となっています。

なお、価格帯につきましては、A 体、B 体などのサイズや販売店での販売価格の差となっております。

また、10 年前との価格の変動につきましては、販売店にお聞きしたところ、約 10% から 15% 程度値上げになっており、理由といたしましては、消費税率の引き上げ部分と物価上昇に伴う生地の値上げが要因であると同ったところです。

②次に、市内中学校の制服の着用についてであります、

入学式、始業式、終業式、卒業式などの儀式的行事、定期テストや学力テスト、修学旅行、音楽発表会、校外活動などにおいて制服を着用することになっており、市内 4 中学校とも、ほぼ同様の取り扱いとなっております。これらの行事以外では、峰延中学校、南美唄中学校及び東中学校は指定ジャージとなっており、美唄中学校はジャージを指定しておりませんので、上下対のジャージを着用することになっております。

③次に、新入学児童生徒学用品費の支給額についてありますが、平成 29 年度から小学校については 20,470 円から 40,600 円に、中学校については、23,550 円から 47,400 円に、単価が引き上げられ、本市においては、改定された単価で準要保護の方に支給したところであります。なお、新入学児童生徒学用品費には、中学校においては制服代等が含まれております。

平成 29 年 第 4 回 定例会 一般質問

再質問

吉岡 文子 議員  
教育委員会学務課

件 名            2     教育行政について

中項目          (1)    市内の中学校の制服について

質問内容

公正取引委員会からの「公立中学校における制服の取引実態に関する調査報告書」の取り扱いについて伺う。

①市内中学校へこの報告書を周知しているか伺う。

答弁内容

（「公立中学校における制服の取引実態に関する調査報告書」の取り扱いについて ）であります、

平成 29 年 12 月 6 日付けで、公正取引委員会事務総局から市内の公立中学校に対し周知するようご依頼がありましたので、市内中学校長あてその旨を通知し、合わせて調査報告書の概要版を配付したところでございます。

平成 29 年 第 4 回 定例会 一般質問

丸山 文靖 議員  
教育委員会学務課

件 名            3     教育行政について

中項目          (1)   小中学校における I C T 活用について

質問内容

① 1 点目は、本市の小・中学校には、全ての学校にパソコン教室がありコンピュータが置かれていますが、その活用状況と次期学習指導要領に向けて必要な I C T 環境についての考え方をお聞きします。

② 2 点目として、I C T の活用にあたっては、教員の指導力が重要なカギとなることから、授業でのタブレット端末などを有効に活用できる技術力や指導力を高める研修が欠かせないものと考えますが、教員の I C T 研修や研究活動の充実に向けた考え方をお聞きします。

答弁内容

(小中学校における I C T 活用について) であります。

① はじめに、小中学校の I C T 機器の活用状況と今後の考え方についてであります。美唄市の小中学校における I C T 機器の導入状況については、児童生徒数に応じ、市内小中学校のパソコン教室に 2 3 1 台のパソコンを設置し、各教科や総合的な学習の時間、旅行の行事のまとめの時間の中で活用しているところです。

また、パソコンの活用頻度につきましては、旅行的行事の後や総合的な学習の調べ学習が多くなる時期には、ほぼ毎日、毎時間使用し、通常の時期においても、パソコン教室の割り当て時間割を作成し、毎日、いずれかの学級が使用しております。

また、タブレット型パソコンの導入と活用状況ですが、全市内の小学校の特別支援学級に 36 台、中学校の特別支援学級に 20 台を特別支援学級の規模に応じて、各学校に備えております。通常学級については、特別支援学級の空き時間に利用してありますが、タブレットの絶対数が少ないことやネット環境、いわゆる Wifi 環境が整っていないことから、平成 32 年度、平成 33 年度にそれぞれ全面改正される次期学習指導要領に示される教育課程を円滑に実践していくことが難しい状況となっているところです。

次に、本市の ICT 教育に関する考え方についてであります、次期学習指導要領では「主体的・対話的で深い学び」を実践する、アクティブラーニング、いわゆる「能動的な学習」の視点から授業を進めることが柱となっております。

次期学習指導要領の中では、教師が児童生徒に課題を与え、児童生徒がタブレットを活用し「主体的」に調べ、調べた結果を持ち寄り、机を寄せた中でグループディスカッションを行い、その結果を電子黒板等に映し出すなど、ICT 機器を活用した授業方法が例として示されております。このため、教育委員会といたしましては、

「主体的・対話的で深い学び」を実践するためには、新学習指導要領の移行期間となる平成 30 年度、31 年度の 2 年間で、動作環境を含め、市内小中学校の ICT 機器の整備・充実が必要であると考えているところです。

②次に、教職員の ICT に係る研修等についてであります、ICT 機器を活用し授業を実践していくためには、教師自らが、それぞれの機器の特性を理解し、デジタル教材の研究を行うなど、機器操作等の習熟度を深めていかなければならないものと考えております。

す。

このため、教育委員会といたしましては、教師に対しては、これまでの道立教育研究所や道立特別支援教育センター、空知教育センターにおいて実施しているＩＣＴ機器研修を積極的に受講するよう促すとともに、ＩＣＴの活用に関心をもち、力を発揮している教師を中心とした美唄市ＩＣＴ検討委員会において研修の機会を設けるほか、先進校への視察等を通じ、ＩＣＴ機器の効果的・効率的な活用を促すまいと考えております。